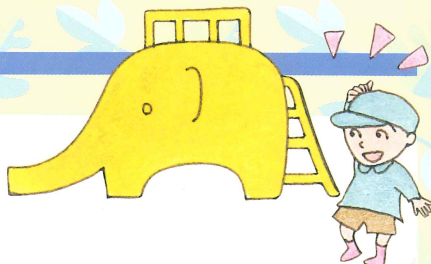


BCG



BCGで予防できる結核ってどんな病気？

結核は結核菌によって起こる慢性伝染病で、一般に肺に起こる肺結核が知られています。日本では現在でも毎年3万人以上の結核患者が発生しています。また、乳幼児が結核に感染すると、粟粒結核や結核性髄膜炎などになったりして、

重い後遺症を残すことがあります。乳幼児期早期に牛型結核菌を弱めたワクチン(BCG)を接種しておく、肺結核は50%、結核性髄膜炎は80%が予防できるというデータが出ています。

乳幼児期の可能な限り早い時期での接種が重要です。



接種を受ける時期と間隔は？

●対象者年齢

生後6カ月未満
(接種側の計画ができないとき、本人に特別な事情があるときは1歳未満)
(標準接種年齢: 3~6カ月未満)

●回数

1回。

接種の方法は、管針法(スタンプ式)といって管に細い針がついたものを上腕の2カ所に強く押しつけて接種します。接種したところは、日陰で自然乾燥させてください。10分程度で乾きます。

BCGの副反応は？

- 2~4週後に接種部位が赤くなったり、うみが出たりするのは異常反応ではなく、免疫が正しくついた証拠です。包帯やバンソウコウはせずに、清潔に保ってください。

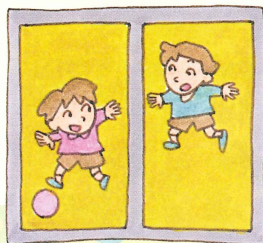
【注意】ただし、1カ月以上続くときには、かかりつけの医師の診察を受けましょう。

- 副反応として、まれに接種をした側のわきの下のリンパ節が腫れることがあります。通常放置して様子を見てかまいません。

【注意】赤くなったり痛みがあるときは、かかりつけの医師に相談しましょう。

◎ツベルクリン反応検査をしなくなったための注意

接種後3日目から10日目頃までに接種部位に明らかな発赤・腫脹、針痕部位の化膿などがみられた場合(コッホ現象という)には、赤ちゃんが結核に感染している可能性が高いので、すぐかかりつけの医師と相談しましょう。



●接種日メモ

